

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号
------	---------

氏 名 佐藤 静香

論 文 題 目

The efficacy and toxicity of 4-day chemotherapy with methotrexate, etoposide and actinomycin D in patients with choriocarcinoma and high-risk gestational trophoblastic neoplasia

(絨毛癌及び high-risk gestational trophoblastic neoplasia に対するメトトレキサート、エトポシド、アクチノマイシン D 療法 4 日間法の効果と副症状)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

安藤 雄一 


名古屋大学教授

委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

後藤 百万 

名古屋大学教授

指導教授

吉川 史隆 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

絨毛癌や high-risk gestational trophoblastic neoplasia (GTN) に対する治療として、エトポシド、メトトレキサート、アクチノマイシン D、シクロフォスファミド、ビンクリスチン (EMA/CO) 療法やメトトレキサート、エトポシド、アクチノマイシン D (MEA) 療法が第一選択として普及している。本研究では重篤な副症状を回避することを目的に、5 日間投与のレジメンである MEA 療法 (5-day MEA 療法) を 4 日間に短縮した 4-day MEA 療法の効果と副症状について検討した。4-day MEA 療法の完全寛解率は 5-day MEA 療法や EMA/CO 療法と同等であり、第一選択として治療した患者ではわずかに良い結果であった。副症状については granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF) の予防投与やエトポシド、アクチノマイシン D (EA) 療法への変更は必要であったが許容される範囲であった。本研究の結果より 4-day MEA 療法は絨毛癌や high-risk GTN に対する第一選択の一つとして推奨され得ると考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した

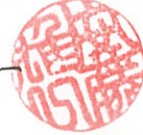



1. 5-day MEA 療法から 4-day MEA 療法へ変更することにより、Dose intensity (DI) はメトトレキサート、エトポシド、アクチノマイシン D のいずれの薬剤でも上昇した。また EMA/CO 療法と比較しても 4-day MEA 療法の方がいずれの薬剤でも DI は高かった。一方で 2 週間毎に 3 日間薬剤を投与する 3-day MEA 療法では 5-day MEA 療法と比べ DI は低下する結果となった。本研究の目的である 5-day MEA 療法と効果は同等であり、重篤な副症状を回避するという点において 4-day MEA 療法は適していると考えられた。
2. 絨毛性疾患のスコアリングによる分類は正診率が高く、組織的診断との一致率は 91~96% である。本研究では 29 名中組織的絨毛癌が 12 名、臨床的絨毛癌が 17 名であったが、寛解率は前者が 75.0%、後者が 82.4% と組織的絨毛癌がやや低い傾向にあった。組織的絨毛癌の場合、子宮外病変に対し手術が施行され診断に至るケースが散見され、各症例の病期が高い傾向にあることが原因として考えられた。
3. 4. 絨毛癌及び high-risk GTN の再発が最も多いのは治療終了後 12 か月以内であると報告されている。このため挙児希望のある患者には、治療終了から 12 か月間血清 hCG 値が正常範囲で推移すれば以降は妊娠を許可している。化学療法後の妊娠であっても流産や早産、児の先天性異常の発生に有意差はないと報告されている。エトポシドは卵巣機能不全を生じることが報告されているが、本研究では 4-day MEA 療法での治療後の妊孕性は良好であり、挙児希望のある患者のうち 45.5% が挙児を得た。他の MEA 療法の報告でも妊孕性の低下は明らかではないとの報告が多い。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号	氏 名	佐藤 静香
試験担当者	主査	安藤雄一	副査 ₁	小寺泰弘
	副査 ₂	後藤百石	指導教授	吉川史隆
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 5-dayMEA療法から4-dayMEA療法に変更した意義について2. 組織的絨毛癌と臨床的絨毛癌の比較について3. 治療後の妊娠について4. 妊孕性に対するMEA療法のメリットについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号	氏 名	佐藤 静香
試験担当者	主査 安藤雄一 	副査 ₁ 小寺泰弘 	
	副査 ₂ 後藤百万 	指導教授 吉川史隆 	
(学力審査の結果の要旨)			
<p>名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。</p>			